

いきいき
ライフ
に乾杯!

「お米を背負って山を走る」

仙人ヶ岳トレイルランレース実行委員長

いしかわ
石川 潔さん(67歳)



近

年、注目を浴びている競技「トレイルラン」。豊かな自然の中、起伏のある山道を走る過酷なレース。足利市最高峰の仙人ヶ岳で行われている大会を運営する石川さんにお話を伺いました。

トレイルランとはどんな

競技ですか

簡単に言えば、自然を楽しみながら登山道(トレイル)を走る競技です。ヨーロッパで盛んに行われています。

普通は長い距離(30kmや40km)で行っていますが、足利では17km強と短いため、走力のある人は装備が軽く、そうでない人は重くなります。そこで、出来るだけ公平を期すため、

重荷を背負ってもらうことにしました。お米にしたのは、ゴールした時、「計算しやすい」とか、「途中で捨てられない」などの理由です。

始めたきっかけは

私は、もともと群馬県山岳連盟に所属していました。90年代から上州武尊山での登山レースの手伝いをし始め、足利でもこんなレースをやってみたいという気持ちが強くなり、2008年に初めて開催しました。会場は、足利で一番高い山、仙人ヶ岳を市民に広く知ってもらいたいとの気持ちから決めました。

栃木県で初めての大会でしたので、競技の出身を知ってもらうのに時間がかかりましたが、現在では、日本のトップランナーも参加しています。一般の人も噂を聞いて参加者は年々増加しています。しかし、運営上の問題から、参加者は200名を上限にしています。

主催者としての苦労話は

毎回、何もないことはありません。しかし、その問題を処理していくことが、やりがいにつながります。特に大変なのは、警察や土木関係

機関との連絡調整に時間や手間がかかります。また、傷害保険に加入していますが、近い将来、トレイルランレースが保険の適用から除外されそうだとこの情報があり、とても心配です。

今後の抱負は

次の大会を主催することが精一杯であり考えていません。一回一回を楽しくやっていたらと思っています。

最後に、何でもそうですが、自分を知ることが大切です。せっかく来たのだから、もう少しだからと無理をするのはため。また来ればいいんです。

終始控えめな石川さん。トレイルランレースが今後も継続されて仙人ヶ岳の良さを多くの方に知っていただきたいものです。(M・H)

男女共同参画コーナー

人権・男女共同参画に関する意識調査(H26年8月実施)によると「平等、ある程度平等」と回答した割合は、女性より男性の方が高くなっています。この男女の意

識の差を縮めていくため皆さんで考えていきましょう。

編集後記

水泳や将棋で頂点を極めた若人のはつらつとした表情。結婚を希望しない女性が3割もいる中で、仕事と育児を両立し、ワーク・ライフ・バランスを進めている女性。スポーツを通して足利市の活性化に貢献している人など多彩な方々が紙面をかざってくれました。

読者に少しでも参考になればと願っています。

(M・H)

あなたは、現在男女平等がどの程度実現されていると思いますか。

【家庭生活の中で】

